日本食糧新聞

チーム営業

◎◎ 22 ◎◎

# イスラム圏に商機あり

◎◎◎ ◎◎◎
ドバイという国

日本の地方都市を回っていると高齢化、消費低迷、人口減少という現実に向き合わねばならない。このような現状に閉塞感を持っていたところ、ドバイに行く機会を得た。ドバイは、アラブ首長国連邦（UAE）を構成する首長国の一つで、アラビア半島ペルシャ湾沿岸に位置しているドバイ首長国の首都。UAEの首都アブダビに次ぐ第2の中心都市で人口は約244万人。

ドバイには、世界一の高層ビルやマンション、世界初の七つ星ホテル、世界一の規模を誇るショッピングモールなどがある。2100年にはイスラム教徒が世界での宗派別人口でキリスト教を抜いて最大勢力になると予測されており、市場としての可能性を感じた。

◎◎◎ ◎◎◎
日本食の可能性

16年3月下旬、降り立ったドバイで一番驚いたのは、外国人の多さだ。町の雰囲気はホノルルとロサンゼルスとニューヨークを合わせたような感じで、観光客慣れした国際都市だったのだ。物価は日本よりも少し高く、治安もいい。アルコールは禁止されているため、居酒屋はなく、酔っ払いもいない。そのせいか夜の空気がクリアに感じられた。

20年に中東初の国際博覧会がドバイで開催されることが決まり、22年には隣のカタールでFIFAワールドカップが開催されることから、急ピッチで建設が進み、街は活気に満ちている。

世界最大規模を誇るショッピングセンター「ドバイモール」は、東京ドームが23個入る広さで水族館、スケートリンクなどもある。ドバイモールにあるフードコートでは世界各国の料理が食べられ、当然日本食もすでにあるだろうと思いきや、残念なことに日本食まがいのものしかない。日本人以外のオーナーで味も見た目も日本国内のものに比べるとはるかに劣っている。しかし、だからこそ、ここに大きなビジネスチャンスがあるともいえる。

◎◎◎ ◎◎◎
チームジャパンで

イスラムというとハラールが気になるところ。ハラールとはイスラム法上で食べることが許されている食材や料理のことだ。観光客向けにハラール認証ビジネスが日本でも広がっているが、ハラールフレンドリーという言葉もあることは知っておくとよい。ハラール認証を受けなくてもイスラムで禁止されている豚やアルコール（みりん、醤油なども含まれる）が入っていないという表示をするだけでもよいという考え方だ。

ドバイ向けハラール食材の開発、製造、輸送、保管、配送までできれば新たな市場は開拓できるだろう。そもそもドバイには外国人が多いから、ハラールを気にせず外国人ターゲットのビジネスを展開するという発想でもいいかもしれない。その証拠にショッピングセンターに出店している日本の老舗菓子の品物は、ハラール表示がないのに飛ぶように売れている。理由は単純で「おいしいから」。

日本へのイメージはどうか。高品質への信頼、漫画やアニメといった文化への親近感を持っている。チームジャパンとして文化とともに日本の食を提供できれば、新たな笑顔が広がるのではないだろうか。

（アイマム代表取締役社長嶋谷光洋、foodbank.co.jp）

美味しければ笑顔になる

©マンガエッグ・エンターテイメント